

消費税率引上げ後の消費動向等 について（5月第2週）

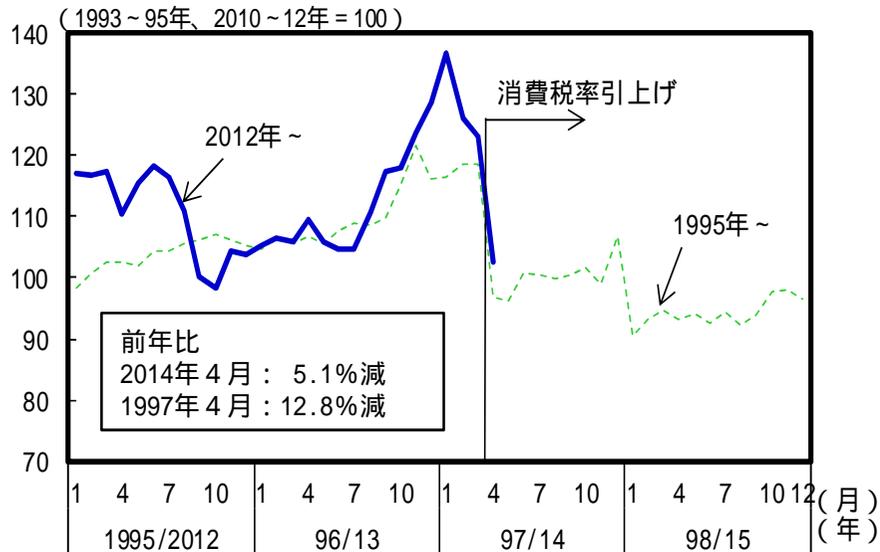
平成26年5月16日

内閣府

自動車・家電販売の動向

自動車販売は、受注残の下支えもあって、4月は前年比で約5%減にとどまった。ただし、足下の受注は弱いので、先行きは慎重にみる必要がある。

新車販売台数（含軽）（1997年頃との比較）



(備考) 1. 日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会により作成。
2. 内閣府による季節調整値を指数化したもの。

自動車販売台数（除く軽自動車、登録ベース）は、5月の頭は勢いが鈍化したものの、その後上向いてきている。しかし、この動きが一時的なものか今後も続くかは、もう少し期間を置いてみないと判断はできない。いずれにせよ、先週から状況が大きく変わったとはみていない。

【業界団体A】

軽自動車の販売台数（届出ベース）は、5月に入ってから、稼働日が前年より少ないため、現時点では前年比マイナスになっている。しかしながら、これまでと同様、受注残が相当程度の下支えとなると見込まれるため、今後、前年越えに転じることが期待される。

【業界団体B】

主要5品目の家電販売は、GW期間でみると、前年比で約11%減と4月平均とほぼ変わらず。

家電販売金額（家電量販店主要5品目）（税抜き）



(備考) 1. GfKジャパン（全国の有力家電量販店販売実績を調査・集計）により内閣府作成。
2. テレビ、エアコン、冷蔵庫、パソコン、携帯電話の5品目の合計。税抜き価格ベース。
3. 主要5品目の販売状況の集計値であるため、2014年3月までは、前年比が高めに出る傾向があった。
4. 2014年4月第1週は、駆け込み需要が大きく現れやすい3月31日が月曜に当たったため、その影響を除いて前年比を算出している。

5月第2週は、前年より休日が一日多かったことから、前週よりも改善。GW期間という括りではデータを確認出来ないが、主要5品目以外の商品が売れていることから、全カテゴリーでみると、主要5品目よりも前年比のマイナス幅は小さいと推測される。

【市場アナリスト】

5月以降でみると、全体では前年比 10%程度となり、GW期間（4/26～5/6）よりやや改善。

【家電量販店】

飲食料品・百貨店・サービス販売の動向

飲食料品は、GW期間でみると、4月第4週とほぼ変わらず。ただし、一部には、反動減に反転の兆しがみられる、との声も聞かれる。

飲食料品（除く生鮮食品）販売金額（スーパー）
（税抜き）



- (備考) 1. KSP (全国の食品スーパーマーケット販売実績を調査・集計) により作成。
2. 加工食品、飲料・酒類、菓子類の3品目の合計。税抜き価格ベース。
3. 既存店ベースのため、前年比が低めに出る傾向がある。
4. 2014年4月第1週は、駆け込み需要が大きく現れやすい3月31日が月曜に当たるため、その影響を除いて前年比を算出している。
5. 5月5日～11日のデータは、速報値。

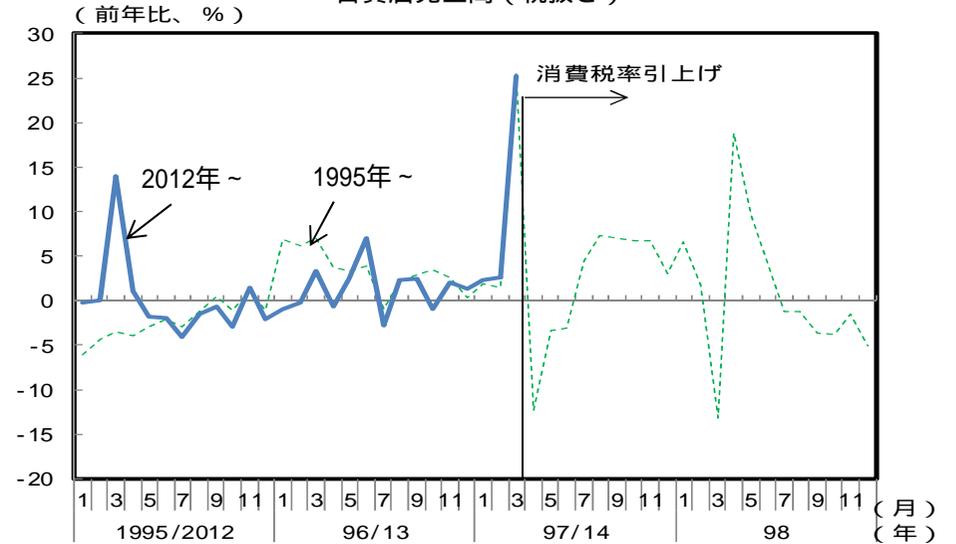
5月第2週は前年比で先週と同様の前年比プラス幅となった。全体で前年比プラスが続いているほか、お米のマイナス幅も前週より縮小するなど、反動減に反転の兆しがみられる。 【食品スーパー】

サービス消費は、旅行は、駆け込み需要の反動減もあり4月には減少も、5月以降は堅調に推移するものとみられる。外食は、5月第2週も底堅く推移。

全体の売上は、4月の新メニューが奏功し、引き続き前年比プラスとなった。高価格帯商品の販売も好調。 【外食チェーン】

大手百貨店5社の4月の売上高（速報）は、平均で前年比1割程度の減少となった。消費税引上げ後の反動減から回復傾向にある、との声も聞かれる。

百貨店売上高（税抜き）



(備考)日本百貨店協会資料により作成。全店ベース。

服飾・洋品が回復基調にあり、ほぼ前年並みで推移している。衣類の特選関連についてもほぼ想定通りのペースで回復。一方、舶来時計や宝飾など、外商関連の売上構成の大きい分野は苦戦している。 【百貨店A】

売上は5月1日～11日までの累積で、主要3店舗合計で前年比約5%減となった。消費税引き上げ後の反動減から緩やかな回復基調にあるとみている。ただし、反動減は夏くらいまでは続くのではないかとみている。品目別では、紳士服がカジュアル・ビジネスともに好調に推移している。 【百貨店B】